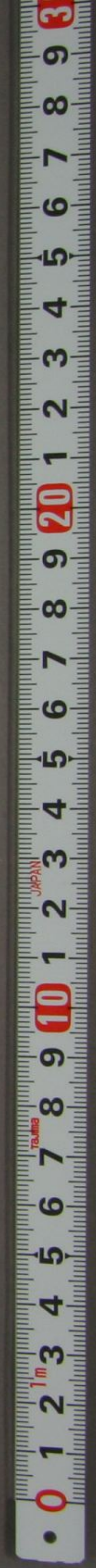


474
A 293

明治十年九州地方賊徒征討費決算成ル重信茲ニ報告書
ヲ編製シ謹テ閣下ニ上呈ス伏テ惟ルニ明治維新ノ後國
家兵ヲ用ル一ニシテ止ラス曩ニ佐賀追討ノ役アリ尋テ
臺灣問罪ノ舉アリ以テ熊本山口ノ事ニ至ルマテ皆各軍
須アリト雖モ未タ嘗テ是役ノ如ク夥多ナル者アラサル
也遂ニ民金ヲ借入レ紙幣ヲ増發スルニ至ル重信之カ會
計ヲ總理スルニ當リ敢テ一言セサルヲ得サル者アリ夫
レ事ノ大小戦ノ難易ニ依テ要費ノ多寡ヲ殊ニスルハ固
ヨリ理ノ當ニ然ルヘキ所ニシテ非常ノ時機ニ際シ緩急
ノ度支ヲ為ス者尋常ノ準則ヲ執テ之ヲ議ス可ラサルハ
盖シ勢ノ己ナキ所ト雖モ亦自ラ一定ノ法以テ之ヲ節制
スル無ル可ラス然リ而ノ今本費ヲ整理スルニ於テハ既

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

高橋



ニ臨時ノ命令アリ權宜ノ規程ニ遵ヒ以テ決算ヲ完結セ
リ則チ供給ノ次第ヲ見テ要需ノ顛末ヲ知ルニ足ルモ其
規程タル既ニ成ルノ跡ニ就テ之ヲ設ルニ過サルヲ以テ
度支軌轍ノ一ニシ甲乙鈞衡ヲ同フセシムル能ハス隨テ
本費ノ嵩増ヲ致ス者アリ他ナシ戰時ノ法律未タ前ニ備
ヲサルニ由ルノミ今試ニ之ヲ例スルニ戰地人夫ニ係ル
ノ費用ハ甚タ巨多ニシテ實ニ全費三分ノ一ニ及ヘリ之
ヲ戰況ニ比シテ尚ホ少シトセン乎將タ之ヲ過多ナリト
セン乎標準ヲ以テ之ヲ計較スヘキナシ況ヤ調募ノ法雇
錢ノ率未タ定ラサルオヤ當時傭役ノ尺夫現使ト豫備ト
ニ拘ラス其總計ニ就テ之カ雇錢ヲ平均スレハ每個給ス
ル所概チ六十餘錢ニ過キサルモ其實現使者ニ在テハ多キ者
或ハ貳圓ニ及ヒ少キモ八十錢ニ下ラス亦タ多シト謂ハ

シ蓋シ徭役ノ制廢シテヨリ後國民戰役ニ服スルノ義ヲ
明ニセサレハ時ニ隨ヒ自ラ雇錢ヲ高低スルヲアルモ其
欲スル所之レ給セサルヲ得ス其費額ノ多カラサランヲ
欲スルモ得ヘケンヤ且夫レ旅費ノ如ク陸海軍ニ在テハ
嘗テ戰時費概則アリ軍人ニ給スル者皆節減ノ例ニ隨ヒ
各宜キニ適スル所アルモ敢テ之ヲ他ニ及ホスニ足ラス
則チ警視巡查ヲシテ軍ニ赴カシムルニ當リ之ニ給スル
所給テ平常ノ定規ニ據ル如キ均ク戰地ニ往來シ是役ニ
服従スル者ニシテ甲ハ戰時ノ概則ヲ以テシ乙ハ平時ノ
定規ニ從フ彼ハ厚ク此ハ薄シ其權衡ヲ相適セサル當ニ
費額ノ増減ヲ議スヘキ而已ニアラサル也若シ夫レ軍器
費ニ至テハ更ニ此ヨリ甚シキ者アリ其費額タル專ラ砲
銃彈藥ノ為メニスト雖モ必シモ之ヲ當時ニ消費セシニ

アラス之ヲ製造スルノ器械ヲ装置シ之ヲ貯藏スルノ倉庫ヲ營築スル如キ以テ他日ノ用ニ供スルノ費甚々夥多ニシテ為メニ本費ノ額ヲ増スモノ亦々僅少ナラサル也此数件ハ事由ノ窳モ賄易キ者ニシテ此他給与ノ事賑恤ノ件ノ如キ亦々此ニ類スル者少シトセス豈ニ之ヲ黙々ニ付スヘケンヤ仰モ平時緩急其勢ニ同シカラサレハ寬嚴詳略其法均シカラス唯能ク之ヲ未々來ラサルノ前ニ定メ以テ從事者ヲシテ準據スル所ヲ知ラシメハ兵馬控惚ト雖モ度支繁雜ト雖モ軌轍一ニスヘク鈞衡同クスヘシ而モ其費額モ亦々徒ニ多キヲ加ヘサルヲ得ヘシ則チ事愈大ニ戰愈難ク遂ニ要需ヲシテ益々夥ク國債ヲ募ル益々多キニ至ラシムルモ之ニ供給スルニ於テ復慊然タルナカルヘシ蓋シ佐賀台灣以下ノ役ニ於テハ軍須甚々

多カラス且其跡既ニ遠シ此レ重信特ニ是役ニ就テ之ヲ言フ所以ナリ然リト雖モ之ヲ事無キノ前ニ立テスシテ之ヲ事有ルヲ後ニ定メントスルハ固ヨリ為スヲ得ヘカラサルノ理ニシテ是役ノ事當時ニ在テハ誠ニ己ヲ得サル者ナリ故ニ重信敢テ之ヲ往事ニ呶々タルニ非ス切ニ之ヲ來者ニ再ヒヤサラシヲ望ムノミ幸ニ矜察ヲ賜ヘ重信誠恐懇悃ノ至ニ任ルナシ

征討費總理事務局長官

明治十二年 月 日

大藏卿大隈重信

